

二〇二二年度国文学会彙報

二〇二二年度国文学会活動状況

△国文学会総会・春季研究発表会・講演会▽

二〇二二年六月一九日(日) 良心館二〇三教室

(Zoomによるオンライン併用)

・総会

・研究発表

『万葉集』巻三・四〇六番歌の「認」字

本学大学院博士課程前期課程 日比野希歩

和語「マウク」の意味用法における「設」の影響

本学大学院博士課程後期課程 胡鴻洋

教室で文学を学ぶ意義——村上春樹「鏡」を教材として——

セントヨゼフ女子学園高等学校・中学校教諭 高野昌彦

・講演

古典に学ぶ香りの暮らし

株式会社松栄堂 畑正高

△伝統文化継承者成果発表会・国文学会秋季研究発表会・講演会▽

二〇二二年一二月四日(日) 良心館二〇三教室

(Zoomによるオンライン併用)

・伝統文化継承者成果発表

能楽大倉流小鼓方 解説と実演「四海波」「玉ノ段」

本学学部生 寺澤杏海

賛助出演 寺澤拓海

・研究発表

花田清輝「ものみな歌でおわる」論

本学助教 加藤大生

・退職記念講演

フィールドと文献をつなぐ演劇史

本学教授 山田和人

「湯島詣」の上演——泉鏡花の自筆原稿をめぐって

本学教授 田中励儀

△ゼミ相談会▽ 学生会主催

二〇二二年一月一八日(金)、一月二四日(木)

良心館三二六教室

△国文遊歩▽ 学生会主催

二〇二二年一二月四日(日)

京セラ美術館、永観堂

△講演会▽ 院生部会主催

二〇二二年一月二二日(月) 至誠館一階四番教室

古い書物の面白さ——国文学研究と書誌学——

久保木秀夫(日本大学教授)

△文学散歩▽ 院生部会主催

二〇二三年三月一八日（土）

西芳寺、京都花鳥館、松尾大社、梅宮大社

△研究発表会▽ 院生部会主催

二〇二三年三月一八日（土） 良心館二〇六教室

△同志社国文学▽

第九七号 二〇二二年一二月二〇日発行

収載論文五篇、資料紹介一編、索引一編

第九八号 二〇二三年三月二〇日発行

収載論文一九篇、資料紹介四編、実践報告一編

△国文学会会報▽

第五〇号 二〇二三年三月二〇日発行

二〇二二年度博士論文題目

近世壬生狂言の研究

八木 智生

古代日本語における漢字の意味用法の受容

胡 鴻洋

——漢文訓読語への影響を中心に——

二〇二二年度修士論文題目

『古事記』ヲドヒメ歌謡物語の構想

真弓 大芽

——その成立に注目して——

歌意からみた『万葉集』巻九巻頭・雄略天皇御製歌の意義

日比野 希歩

——鳴かない鹿の表現に注目して——

『宇治拾遺物語』第八四話の背景

前田 真記

『苔の衣』及び『石清水物語』における

釜丸 祥

「心弱し」の機能について

『源氏小鏡』の諸本分類再考と形容詞の機能

酒瀬川 なおみ

△垣見修司ゼミ▽

麻績王の歌と麻績氏と説話の伝播について

榎原 梨央

『万葉集』巻一・五一番歌の考察

下北 菜々美

『万葉集』における湯原王の独自性について

在本 柚巴

△岩坪健ゼミ▽

「菅鳥」に関する考察

宮本 駿平

八代集における冬部の歌

山本 瑞生

『源氏物語』以前の和歌集における桜

遠藤 雄太朗

夕顔の死について

新庄 菜生

若紫から紫の上への心の成長の一考察

佐竹 真生子

―― 変わるものと変わらないもの――

密通における藤壺と柏木の共通項の考究

小夏 珠々花

明石の君の役割についての考察

林田 珠加子

―― 母としての姿――

雲居雁の人物造型

上久保 咲穂

玉鬘の人物造型

乾 早紀

『紫式部日記』からみる紫式部のシスターフッド

―― 漢詩文の知識とエスの感性を考察して――

葉山 綾

紫式部による清少納言の捉え方

―― 文章に表れる紫式部の考えをもとにして――

松川 来未

中宮定子の展開した後宮について

―― 『枕草子』『栄花物語』『大鏡』から――

山下 菜々子

『夜の寝覚』における『源氏物語』の影響

―― 女主人公の比較を中心に――

鶴岡 里菜

樋口一葉作品における『源氏物語』の影響

―― 『たけくらべ』を中心として――

井上 瑞月

△柳川響ゼミ▽

説話集における「鬼」の役割と変化

―― 『日本霊異記』『発心集』『宇治拾遺物語』『十訓抄』――

全 玄歌

人物描写から見る『陸奥話記』構造論

中山 尚

『平家物語』の構想

―― 清盛の悪行を中心に――

森本 友香

『平家物語』覚一本における音楽の役割について

―― 仏教的観点を中心に――

宮田 あすか

覚一本『平家物語』における恥の感情について

大石 彩翔

謡曲「通小町」の百夜通い

―― 謡曲、説話との比較を通じて――

柴田 美春

謡曲『求塚』における墮地獄について

―― 菜摘みとの関係をめぐって――

江沢 舞花

室町時代の物語における四季の傾向と理想

藤本 茉穂

△源健一(郎ゼミ)

覚一本『平家物語』における安德帝と死

平林 悠希

——延慶本『平家物語』との比較から——

平家物語覚一本「剛の者」の性格

柴田 夕夏

装束描写から人物像を探る

横井 碧

——『平家物語』覚一本の演出性——

△山田和人ゼミ

『好色一代男』女性人物形象考

平山 天音

——衣装の視点を据えて——

先行研究と作品比較から考察する近松門左衛門『曾根崎心中』

「観音めぐり」の意義について

杉山 みずな

元禄期の近松浄瑠璃における音楽的用法

川口 大樹

歌舞伎女方論

富田 ひなの

——芳沢あやめを中心に——

道成寺物語の軌跡

片山 紫乃

——説話から芸能作品へ——

「仮名手本不通人藏」について

山崎 郁香

『東海道中膝栗毛』の魅力

五三掛 美流

——名所・名物からみえてくる道中記——

江戸時代の人魚像

上田 菜月

籠細工見世物から考察する近世後期における見世物と

歌舞伎の相互関係

津吉 優大

「歌舞伎十八番嫩」推論

——戸部銀作脚本と甲賀伝説を中心に——

小林 緋

「嫩」の全体像を探る

歌舞伎『仮名手本忠臣蔵』とバレエ『ザ・カブキ』の

構成比較及び「忠臣蔵論」の検証と考察 阿部 駿太郎

△大山和哉ゼミ

藤原公任「小倉山」歌の諸歌集における相違点とその比較

飯沼 遼太郎

『菅笠日記』の吉野で詠まれた和歌について 鎌田 真衣

和歌のやりとりから見る良寛の人物像 藤田 淳矢

△田中励儀ゼミ

泉鏡花「海城発電」の観念小説としての意義 山本 悠史

泉鏡花「彩色人情本」と「眉かくしの霊」の比較論

廣井 美里

夏目漱石「文鳥」の分析

——主題のありか——

菊岡 瑤子

近現代作家と文芸統制

——荷風作品と発禁処分——

服部 眞子

谷崎潤一郎「秘密」論

安村有加

芥川龍之介「六の宮の姫君」における自立性の意義

フィクションとしての「哀しき父」
夏目漱石『こころ』論

郭 榮信
丹生 竜介

志賀直哉の死生観

柴崎 由紀乃
近藤 紗矢

——「城の崎にて」を中心に——

——読者が抱く共感と憧憬——
谷崎潤一郎「柳湯の事件」を読む
——芸術家を描いた小説として——

門前 晶彦

堀辰雄「聖家族」画からみる作品論

佐久間 絢菜

梶井基次郎「檸檬」における美的感覚と多視点描写

三ツ川 采良

——キリスト教文学と宗教画の視点——

中島敦「文字禍」を中心とした『古譚』研究

清水 沙季

横光利一「春は馬車に乗つて」における自然描写と死の美しさ

村田 萌恵

「僕」と「葉蔵」から見る「道化の華」の構造

姜 海怡

江戸川乱歩「蟲」論

野村 真由

太宰治「女生徒」と性的指向

石田 鳳聖

——一九二〇年代の浅草と視線——

野村 真由

ノルウェイの森を読む

大村 浩太郎

伊藤整「生物祭」考

野村 真由

——レイコの異質性について——

——「私」の自意識と自然の描写に注目して——

向井 ひな

小林賢太郎「小林賢太郎戯曲集 TEXT」研究

矢野 貴丸

岡本かの子『老妓抄』における時代性

向井 ひな

△西川貴子ゼミ▽

国木田独歩の運命観

八代 恵実

——「運命論者」を中心に——
——〈老女〉表象と作品の形式をめぐる——

横山 千華子

——「少女病」と「蒲団」を比較して——

中野 温貴

太宰治「葉桜と魔笛」論

横山 千華子

田山花袋の少女崇拜

中野 温貴

——「魔笛」に託された願いと抵抗

白井 奎衣

——「少女病」と「蒲団」を比較して——

中野 温貴

——「魔笛」に託された願いと抵抗

白井 奎衣

居場所を求める次男

古庄 香弥

——「魔笛」に託された願いと抵抗

白井 奎衣

——徳富蘆花『寄生木』論——

古庄 香弥

——「魔笛」に託された願いと抵抗

白井 奎衣

武田泰淳「蝮のすえ」論

——生の〈転回〉をめぐる——

河合 萌恵子

「ガラスの靴」考

木元 奏

松本清張「天城越え」におけるトンネル

勝村 まり那

河野多恵子「塀の中」に見る戦争体験とサディズム

富田 柊生

△瀬崎圭二ゼミ▽

永井荷風「すみだ川」における「煩悶青年」

荻野 菜々香

異端者の世界への入口としての谷崎ミステリー

——『白昼鬼語』と『私』と『柳湯の事件』——

山崎 竜生

作中人物の男女視点から読み解く『真珠夫人』

岩崎 悠生

菊池寛「俊寛」論

村上 恵菜

——大正期南進論と〈外〉への交わり——

井伏鱒二論

——小動物を扱った作品における思想と表現——

岸田 弘大

堀辰雄「水族館」

阿部 知美

——都市が生み出した「死」——

『少女地獄』

——「少女」たちの反乱とアイロニー——

小西 真央

『砂の女』における男と社会

西村 咲来

安部公房と勅使河原宏による「他人の顔」の表象

近藤 夏帆

古井由吉「杏子」論

——自己確立の様相——

中川 真緒

村上龍『海の向こうで戦争が始まる』における「喪失」

岸本 大治

昭和から令和へ、「ジヨゼと虎と魚たち」が辿る道筋

山東 未奈

村上春樹『回転木馬のデッド・ヒート』論

——「スケッチ」にみる「無力感」——

上 島 勇太郎

『リレイ・シュシュのすべて』の「空間」に見られる

岩井俊二による思春期の少年少女の捉え方 松崎 勇己

△山本佐和子ゼミ▽

Youtubeのコメント欄に見られる日本語の特徴

——補助符号を中心として——

西村 遼

「むね」と「ころ」の慣用表現の歴史

宗 像 友美

若者言葉「形容詞+引用テ」の意味・用法

——「えぐいて」「やばいて」「おもしろいて」を中心に——

田中大誠

洞門抄物における文末助詞「ナ」について 田中悠太

近世の歌舞伎役者評判記における接続詞の使用について

塩屋紗瑛

ビジネス場面における「依頼」「申し出」の配慮表現

中田翔

80年代女性アイドルの楽曲における女性語の機能

——山口百恵、中森明菜、松田聖子を中心に——

樋田有紗

「坂道グループ」の歌詞に関する言語調査

——「AKB48グループ」の歌詞と比較して——

古賀美唯奈

日本語ラップにおける押韻の変遷

—— TOKONA X (トコナ・エックス) と

Yellow Bucks (イエロー・バックス) の比較 ——

迫田雄人

漫画「ONE PIECE」における方言キャラクターのイメージ

東裕介

京都市方言の否定表現について

福岡市方言における「なるほどですね」の用法

坂本朱梨

「やさしい日本語」を使ったニュース記事の言語について

——各種方針と実態の比較——

△藤井俊博ゼミ▽

『檸檬』に見る表記法の変遷

——原作と高校教科書との比較——

伊藤祐介

少女漫画における男女の文末表現

少年漫画雑誌と少女漫画雑誌の比較

——一人称に着目して——

後原未来

少女向けアニメーション作品関連曲における語彙の通時的分析

中学校の社会科教科書における文体の特性について

中学校及び高校国語科教科書における評論文の

学年別難易度の分析

比嘉京香

現代語「かわいい」の使用実態に見る性差

並列を表す助詞「たり」の書き言葉における使用実態について

——「〜たり〜たりする」の形を取らない文型を中心に——

三浦 萌

プログラミング関連書籍のタイトルの変遷について

菅野 あい

経済書籍タイトルの特徴と変遷

中野 朝馨

外国映画における日本語タイトルの研究

——漢字・ひらがな表記とカタカナ表記を中心に——

山本 捺津子

二〇代向けファッション誌に見る男女の文末表現の差について

我妻 奈菜

笑いが起こる漫才の構成とその変遷について

——M—1グランプリを題材として——

細井 日向子

電子版新聞における見出しの特徴

浦谷 梨央

上級日本語学習者の対話における非流暢性

柚木原 紗弥

——ファイラーに注目して——